

8604○○から××へ・・・

○○から××へ

きみはいつも美しい。

その美しさを永遠のものとするのは、私の義務ではないかとすら、考えているこのごろだ。

思えばきみと私の仲も長い。

きみと私はおなじ星の下に生まれたのかと思うほど、息を合わせて今日まで来た。

だが、どうやらそれも終わりが近づいたようだ。

私はいま、真剣にきみを殺す手立てを考えている。

辻 真先：南の島のお熱い殺意

[許容訳例]

From A to B:

You are always beautiful.

Recently, I've even been thinking that it's my duty to make your beauty last forever.

You know, we've been close friends for a long time.

We've got on together in such perfect harmony that you'd think we were born under the same star.

But now, it seems, the end is drawing near.

Just now, I'm seriously looking for some means of killing you.

[翻訳例]

From X to Y:

You are always so beautiful.

I've even had the feeling, recently, that it might be my duty to make that beauty last forever.

You know we've been together for a long time.

We've got on so well together, you'd almost think we were born under the same star.

But now, I'm afraid, all that is coming to an end.

Just now, I'm seriously thinking of some way of killing you.

■○○から××へ(8604)

★「○○から××へ」ですが、これは習慣に属することで、覚えておくしか仕方がないのですが、○○××という符号を英語では用いません。ダッシュ（—）を用いるか、A B、 XYのようなアルファベットを用います。それで「○○から××へ」は From A to B とか From X to Y などとするしかありません。

■きみはいつも美しい。(8604)

★「きみはいつも美しい」は、そのまま訳すと You are always beautiful.となります。always

の代わりに invariably という言葉も考えられますが、これは「・・・する [繰り返す] たびにいつも同じ結果になる」というニュアンスで、たとえば Whenever I go to see him, he inevitably[always] out. のように使います。したがって、ここで使うと「会うたびに美しい」という感じになります。他には、ちょっと難しいですが You have a perennial beauty. とすれば、だいたい You are always beautiful.と同じ感じになると思います。perennial という言葉は、もともと through the year という意味ですが、たとえば、This kind of art has a perennial fascination. のように「いつ見ても・・・だ」という意味で使われる言葉です。ただ、ここで強いて使う必要はありません。

●内在する論理性を考える

「きみはいつも美しい」は、一見すると独立している文のように見えますが、内在的な論理構造をうかがうと、次の「その美しさを・・・」以下の文の「理由」を表しています。つまり、「きみはいつも（本当に）美しい（と僕は思う）（だから）・・・」という論理を内在させているわけです。したがって、英語でも‘一見すると独立しているように見せながら、論理性を内在させる’ような文にしきれません。そこで「きみはいつも美しい」を「きみはいつも（本当に）美しい（と僕は思う）（だから）」という論理と主観を含むように so…that…を暗示させる文として You are always so beautiful.とか You have such a perennial beauty.とするといいのです。so を very の意味で用いるのは、（非常に主観的で・女性っぽくって？）あまり勧められないのですが、ここでは so を使うことによって that-clause を予測させながら、それを省く〔予測をそらす〕ことによって、逆に非常に強い気持ちを表すことになり、その余韻で、次の文の「・・・とすら・・・」(even)と呼応させることができます。日本語の修辞技巧の中にある「係り結び」（たとえば、「今こそ別れめ、いざさらば」）のように相関的に用いる修辞法などの言語にもあるのです。

■その美しさを永遠のものとするのは、私の義務ではないかとすら、考えているこのごろだ。(8604)

★「その美しさを永遠のものとするのは」のところは「（だから）その美しさを永遠に継かせることは」と考えます。to make that beauty last forever です。なお、that の代わりに the でも your でも構いませんが、that の方が自然です。

★「私の義務ではないかと」は、文脈の感じから「（あるいは〔ひょっとすると〕）私の義務ではないかと」と補って考えたくなります。ですから、it's my duty to…でもよいのですが、it might be my duty to…とすれば、「（ひょっとすると）私の義務ではないか」を表すことが出来ます。

★「（・・・と）すら、・・・」ですが、日本文では「すら」が文末に置かれていますが、英語では「・・・とすら考えている」のように動詞を修飾するようにして even を使います。

★「・・・とすら、考えているこのごろだ」は Recently I've even been thinking…でも I've even had the feeling, recently, that …でもいいですが、「・・・ではないかと」という日本語の感じをそのまま訳すとすると、Recently I've been considering, even, whether it isn't my

duty to…としてもいいと思います。なお、「このごろ」に these days を使うなら I'm even thinking…でいいですが, recently を使うなら完了形にするのが普通です。それから, recently の代わりに now にすると「今度は・・・」というような感じになりますから、ここでは使えません。

■思えばきみと私の仲も長い。 (8604)

★「思えば」はそれほど強い意味、つまり、「思いかえせば」という意味では使われていないうに思われます。したがって、When I come to think of it (思いおこせば)とか To my (way of) thinking (私の意見では) (=To my opinion)などを使うのは好ましくないというか、日本文の流れから考えると駄目です。ここは You know…ぐらいでいいと思います。つまり Do you realize that…?[You may not think about it very much, but think about it now]. 程度の感じでいいような気がします。

★「きみと私の仲も長い」は We have been together for a long time. くらいです。together と言っても、必ずしも結婚しているとか一緒に住んでいるとかではなく、こういう場合にも使えます。他に We have been close friends [have been friends together] for a long time. などと書くことも出来ます。なお、「仲も長い」の「も」ですが、これは、たとえば、「今年もう終わりだ」というような場合の「も」と同じで、無理に訳出する必要はないと思います。

■きみと私はおなじ星の下に生まれたのかと思うほど、息を合わせて今日まで来た。 (8604)

★「きみと私はおなじ星の下に生まれた」は We were born under the same star. でしょう。なお、辞典などには「同じ星の下」を under the influence of the same star としていますが、the influence of は不要です。

★「・・・かと思うほど・・・」は、formal な言い方としては so[such]…(that) one would [might] think (that)…があります。他には so [such]…(that) you'd (almost) think…という言い方もあります。ここでは、この形を使って in such perfect harmony you'd think we were born under the same star です。

★「息を合わせて来た」は「息が合って・・・」とは異なって、いくらか努力して息を合わせて来たということです。そして、これが「きみを殺す」理由への伏線となっています。したがって、「息が合うように努力して来た」と「努力した」ことを含ませなければなりません。We've got on so well together …とすればその含みを出すことが出来ると思います。辞典には work with each other [work together] in perfect [close] harmony という表現も出ていますが、work を用いると「具体的に共同で作業をして」という意味になってしまいます。ここでは使えません。

★「今まで」は up to now とか so far ですが、英語としては、次の「だが」(But)の後に now を入れて、But now…のようにした方がいいでしょう。

■だが、どうやらそれも終わりが近づいたようだ。 (8604)

● 「だが」(逆接)

「だが」は「逆接」で but ですが、ここには「今まで来たからこれからも続いていくと

思って〔期待して〕もいいのだが」というニュアンスが含まれているので、その感じを出すためにも But now…がさわしいと思います。あるいは But now の代わりに Now, though, …も使えます。

★「どうやら…のようだ」は, it seems も使うことが出来ますが、こここの「どうやら…」は、好ましい方向での推測ではないので I'm afraid を用いるのが最もいいです。

★「それも終わりが近づいた」は all that is coming [drawing] to an end がいいでしょう。all that は口語で、代名詞にも副詞にも使うことの出来る set-phrase で、ここでは「それまでのすべての努力〔あらゆる努力〕」を意味します。なお、the end is drawing [coming] near としても構いません。our last hours are drawing near. は「死期がせまっている」ということで、ここでは使えません。

■私はいま、真剣にきみを殺す手立てを考えている。(8604)

★「いま」は非常に訳しにくいと思います。この「いま」は「…だから実は、本当のところを言うと」という含みがあります。英語の just now にも「…だが、それについて具体的にどうかというと、実は…だ」というニュアンスがありますから、now でもいいですが just now の方が better です。

★「真剣に」は「(冗談と思うかもしれないが) 本気で」という意味ですから seriously です。特に I'm seriously doing something…は、一つの決まり文句のような感じで「こんなことを言うと冗談と思うかもしれないが、本気なんだ」という場合によく使います。なお、代わりに very earnestly を使っても間違いではありませんが、「真剣に…を考えている」という日本語に含まれているユーモラスな感じは出ません。

★「きみを殺す手立て」は some way of killing you です。some way の代わりに some (good) means でもいいでしょう。また、good の代わりに effective も使えますが、少々意味が狭くなってしまいます。

★「…を考えている」は I'm thinking of ~とか I'm trying to think of ~ですが、「…を考えている」を「探している」と解すれば I'm looking for…も使えるでしょう。